

国登録有形文化財

きゅうお が わちゅうじ ろ うしやうてん ぼ お も や ちゅうじ ろ うく ら

旧小川忠次郎商店店舗及び主屋（忠次郎蔵）

皆さんがいるこの「忠次郎蔵」は、行田を代表する産業であった足袋の原料を商っていた小川忠次郎商店の店舗及び主屋として、大正13年（1924）頃から建設が始められ、大正14年（1925）11月7日に棟上式が行われ、昭和4年（1929）頃には完成したと伝えられています。

蓮華寺道りに東面して店蔵の店舗が建ち、その西側に主屋が接続する構造で、店舗部分は切妻造、土蔵造の2階建てとなっています。一方主屋部分は寄棟造、2階建てで、北面と西面の壁を漆喰で塗り込めた、行田特有の北風を意識した防火的なつくりとなっています。内部1階は店舗部分の土間をもつミセから主屋部分のナカノマ、オクへと縦1列に並べる間取りで、2階に格式高い座敷を設けています。なお、こうした間取り・構造は、江戸末～大正期の行田の店蔵に共通して見られるものです。

なお「忠次郎蔵」は、行田の足袋産業隆盛期を象徴する建物として、平成16年6月18日に開催された国の文化審議会において、国の登録文化財（建造物）に登録するよう文部科学大臣に答申されました。

